



国際交流員カロリンのコラム

チュービンゲン特有の舟 Ein ganz besonderes Boot (アイン ガンツ ベゾンデレス ボート)



私は2014年から2017年までチュービンゲン大学に通うため、チュービンゲン市に住んでいました。この都市はドイツの南部にあり、大学を中心として発展してきました。人口の3分の1は大学生で、その他も大学の関係者が多く住んでいます。市内のあちこちに大学の施設があって、まるで都市全体が大学のキャンパスのようです。

この市の有名な観光スポットは要塞、たくさんの木組みの家がある旧市街と、ネッカー川沿いに建っているヘルダーリン塔です。この塔には、フリードリヒ・ヘルダーリンという有名なロマン派の詩人が住んでいました。



壁に模様が入って見える木組みの家

市内を流れるネッカー川では、毎年5月から10月の間「Stocherkahn (シュトファカーン、竿で川底をつついて進む小舟)」に乗ることができます。シュトファカーンは長さ約10メートル、幅約1.6メートルの平らな木造の舟です。屋根や帆はなく背もたれがあるのが特徴で、ひとりの船頭が6メートルの竿たった1本で、最大18名を乗せて進みます。

乗客は背もたれに寄りかかれるのでリラックスできるし、向かい合って座るので話をしやすくなって

います。だから、まったく知らない人と一緒になったとしても、きっと会話が弾みます。

シュトファカーンは大学生にとって生活の一部なので、観光客よりも大学生や卒業生とその家族が利用することが多く、大学が共通の話題になるのでいつも盛り上がります。

シュトファカーンに乗る習慣は、チュービンゲン大学生の間から生まれました。昔、チュービンゲン市は高台に住む大学生や大学の関係者と、ネッカー川の辺りに住む下町のぶどう栽培者とに分かれていました。

ぶどう栽培者はネッカー川でワインを運ぶためにシュトファカーンを使っていましたが、19世紀になってぶどう栽培が減ってくると、経済的に余裕のある大学生がぶどう栽培者からシュトファカーンを買いました。大学生は買い取ったこの舟に乗って、ワインを片手に哲学的な議論を交わしたそうです。

1988年までシュトファカーンに乗ることができたのは大学生だけでしたが、今では観光客も乗ることができるようになって大人気です。

船頭はいつも大学生か地元の人で、約1時間、ネッカー川沿いの観光案内や昔話があり、ヘルダーリンの詩の朗読までします。

私は、これまでにシュトファカーンに4回も乗りましたが、そのたびに新しい話を聞くことができました。

みなさんも、ぜひシュトファカーンの背もたれに体を預けてみませんか！



国際交流員カロリンの「miniドイツ留学」開催！

みなさん、ドイツという国にどんなイメージがありますか？国際交流員のカロリンさんが、ドイツの6つの都市の紹介をしながら、ドイツの文化や歴史、簡単なドイツ語を学ぶアットホームな講座を開催します。ドイツについて全く知らなくても、ドイツに興味がある方なら大歓迎です！みなさんのご参加をお待ちしています！

■日時 6月18日から毎週火曜日
(全6回) 午前10時～11時30分

■定員 14名

■参加費 無料

■場所 市役所

■申込期間

■申し込み・問い合わせ先

6月10日(月)～17日(月)

市国際交流協会 ☎(32)8887

※ママパパ English については40ページをチェック！



TAKE FREE

広報しもつけを設置協力いただけるコンビニエンスストアなどのお店を募集しています。

ご協力いただける場合は総合政策課 ☎0285 (32) 8886 情報広報グループまでご連絡ください。

PC・スマホ
市ホームページ

